

# きょうも おもてなし 日和

川崎美紀の  
SMILE通信



**目**には蚊を、耳には蝉（せみ）を飼っている——。そう聞いて、何のことが想像がつかますか？ 川柳です。

## リアリティたっぷり！ 創作落語で両親と初笑い

今年の年初めに、桂文枝さんの新春落語に行きました。そこで「目には蚊を！」と題する落語を聞きました。

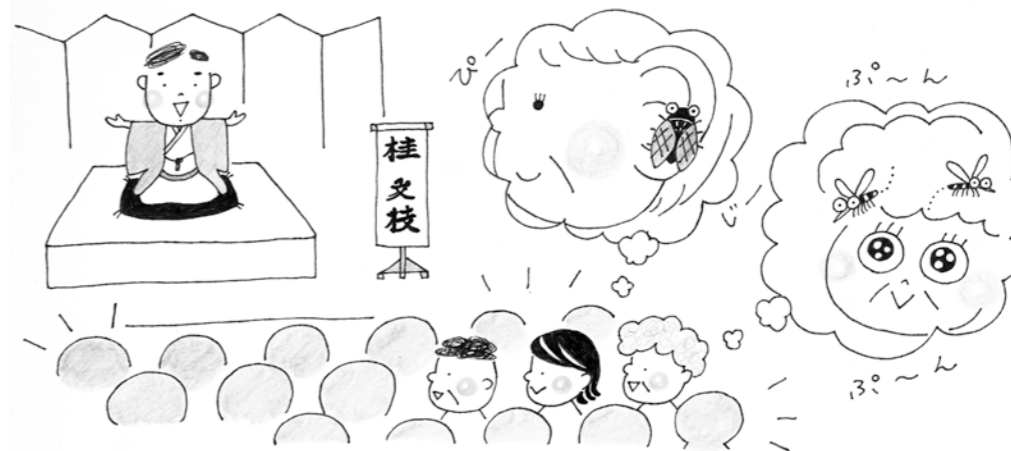
川柳にヒントを得た、創作落語です。年齢を重ねると、目の前を蚊が飛んだり（飛蚊症）、頭の中から「びー」や「じー」のような音が聞こえたり（耳鳴り）するようになる、

のだそうです。蚊が飛ぶ感じは私もわかります、蝉はまだですが。

その落語は、幼なじみとの会話のなかで、お互いの年齢による変化を確かめ合う、慰め合う、そんな笑い話でした。聴衆の笑いと共に大いに得ていました。そのはずです。会場で落語を聞いていた人の多くは、この川柳世代の方々でした。

見渡すと、会場はほぼ満席、元気なシルバー世代がいかに多いか、そしてこの世代が安心して楽しめる場所が限られることもあるのでしょう、年明け早々熱気にあふれていました。

文枝さん、去年は声が枯れていて



イラスト★ささきさとみ (http://blog.goo.ne.jp/satomi343)

と話ができたとあって、喜んでいました。「食事はどうですか？」と声をかけてくれたそうです。家族や看護師さん以外の方と話ができ、嬉しかったのではないかと思います。

食が細くなっていた母は、一生懸命食べていると答えたそうです。また、お粥（かゆ）がうまくできていると答えると、調理の方へ伝える、きっと喜ぶだろうと言っていたと話していました。

お粥の出来の良し悪しは、母世代でないとわからないだろう、とも言っていました。確かに、いまは出来合いのものが多く、わざわざお粥を作る機会はほとんどありません。そもそも、まずいお粥を知らないことに気がきました。

そういう刺激は、母を元気にするのに大きな助けだと思いました。自分の母親に作ってもらった子ども時代のことを思い出したとも言っていました。話しかけてくださって、ありがとうございます。

きれいに掃除してくれたことはもちろん、家族が病室にいるときはテキパキと終わらせ、家族と一緒に時間を邪魔しないような配慮を感じました。

## できることを本気でやりたい 初めての「介護」

近ごろ、「歳には勝てない」と口癖のように言う母です。歳をとることは誰にとっても不安です。でも、過去があるから「いま」がある。そんなこと、私に言われなくてもわかっているはずです。

でも、それでも、若いころは、以前はできたのに、とつい口を突いて出てしまうのでしょうか。頑張らなくていいと思っています。だって、いままで十分頑張ってきたのですから。私を産んで育ててくれた、感謝しかありません。いてくれるだけでいいのです、お母さん。

私にとって初めての「介護」です。できることをしたいと思っています。

す。ひとりで頑張るのではなく、家族と協力していこう、そしてやりやすい方法を学んで、やるならばしっかりと、本気でやります。

そういえば入院中のお見舞いも、父とシフトを決めて、休みの日も設けて疲れないようにしました。母のために、父のために、ではなく、私自身のためにできることをします。そうでないと、それこそ後悔しそうです。

仕事との両立も重要です。実家にも仕事ができるスペースを作りました。JBと呼びます。「実家ベース（Jikka Base）」のつもりで父母に話すと、「じじばば（Jiji Baba）だからか」と言って笑っていました。

そう言われてみると、どちらの意味もあり、ですね。もともと私の部屋だったところを間借りします。30年ぶりの出戻り、です。勝手知ったる空間、コンセントの位置や電気のスイッチ、自然に体が動きました。

## Vol.28 年齢を重ねた親のそばで

聞きづらいうところもありましたが、今年は万全の体調のようでした。ピンク色の着物が似合っていました。私は昨年到现在2回目で、今年も私の両親と一緒に来ました。

有楽町駅からほど近いこの会場はとても便利です。ですが、会場内の移動には不安がありました。早めに行って、早めに着席しようと考えていました。

当日、開場と同時に入ってロビーに座っていると、警備員さんが声をかけてくれました。

「お席までご案内いたしましょうか？ スタッフ用のエレベーターをお使いいただけるように係に伝えます」と言って、案内する係へ取り次いでくれました。

若い人、元気な人にはなんてこと

のないエスカレーターでの移動も、歳を重ねると難儀になります。おかげで会場の入口まではスムーズに着くことができ、トイレに行ってから場内の数段のみを歩くだけで席に着くことができました。

そして「目には蚊を！」を聞くと、年を重ねた変化による難儀なシーンは大いに共感できました。上方落語が初めての両親は、そのノリに少し戸惑っていたようですが、一緒に笑えることは嬉しいです。

## 入院中の母を支えてくれた 看護師・清掃さんの配慮

この夏、母は少し体調を崩し、入院しました。元気を取り戻して退院し、自宅で療養し、リハビリが始まりました。

暑い時期でしたので、「病院にいたほうがよっぽど涼しいのに！」と冗談まじりに言ってみましたが、やはり自宅に戻りたい気持ちは強く、それが病に打ち克つ原動力にもなっていると感じました。

入院時には、看護師さんの大変さを目の当たりにしました。昼夜問わずトイレに行く際にはコールボタンを押して、看護師さんの同席をお願いしました。

シフトで24時間動いている看護師さんです。交代のときには必ずあいさつをしてくれて、大きい字で書かれたネームプレートを部屋の壁に掲示して、母にもいまの担当が誰かわかるようにしてくれていました。優しい配慮を感じました。

また、病室に清掃に来てくれた方



川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>

国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当。